2019 年度大学院入試

デザイン研究科 修士課程

＜実技系／デザイン専攻・建築専攻＞

【小論文】試験問題

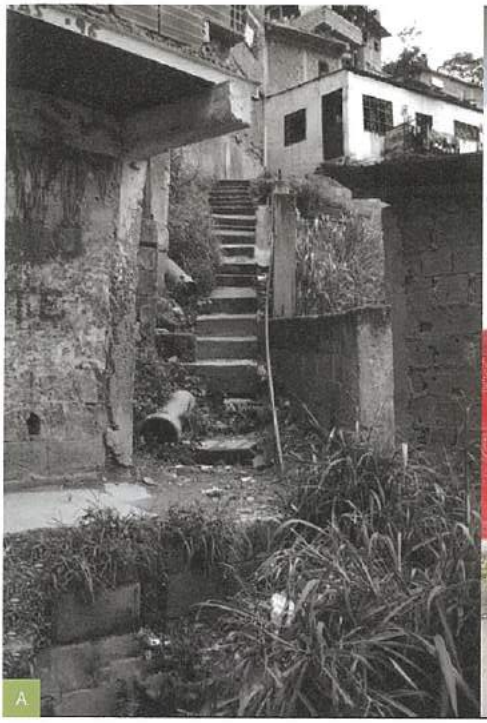
実施日　2018 年 11 月 24 日
時　間　90 分
※解答する言語は、出願時に「日本語」また「英語」を選択してください。
　解答する言語で記載された問題用紙が試験当日に配布されます。
　辞書および電子辞書の持ち込みは不可です。

問　題

別紙の文と写真を読み、現在デザインに求められている最も重要な事柄はなにか、述べなさい。また、ここで抱えている課題を踏まえ、自らのデザイン研究テーマについて論述してください。(字数制限なし)

出典：シンシア・スミス『世界を変えるデザイン２』　英治出版、2015年

“Integral Urban Project” printed with permission by Cooper Hewitt, Smithsonian Design Museum. From Design with the Other 90%: Cities © 2011 Smithsonian Institution.



A

スラムを都市に統合する。

Integral Urban Project

インテグラル・アーバン・プロジェクト

建築家	マリネス・ボカテラ、イサベル・ボカテラ、シルビア・ソーネッツ、ビクトル・ガスティエ（プロヘクトス・アルキ 5）
連携	サン・ラファエル居住地コミュニティ
水力工学エンジニア	アーメド・イラザバル
道路デザイン	フレディ・イリサ
地理学者	ホセ・フランシスコ・マルティネス
構造エンジニア	ホセ・ルイス・ガルシア・コンカ
依頼主	カラカス・バリオ整備プログラム
場所	ベネズエラ、カラカス、ラヴェガインフォーマル居住地、サン・ラファエル・バリオのウニド区
期間	1999- 現在

A　プロジェクト以前と以後。基本サービスが組み込まれた階段の整備。ベネズエラ、カラカス、ラヴェガ、サン・ラファエル・バリオのウニド区。

B　カラカスの人口密度の高い、険しい斜面。

Photo:(c)Proyectos Arqui5

カラカス市のインフォーマル居住地は、市中心部を囲む険しい山の斜面に弧を描くように貼りついている。ラヴェガは最大のインフォーマル居住地のひとつで、４００ヘクタールに9万５０００人が住む。建築家、エンジニア、道路デザイナー、地理学者からなるチームが、ラヴェガのサン・ラファエル・バリオのウニド区コミュニティと協働して居住地のアセスメントを行った。プロヘクトス・アルキ5の建築家は、切り立った地形（50パーセント以上の険しい勾配）が決定的な条件となって、交通の便やサービス、パブリックスペースが制約されていると結論づけた。

チームは、コミュニティが決めた優先順位に基づいて、インテグラル・アーバン・プロジェクトを考案し、主要課題の解決を支援した。まず、新しい道路システムがデザインされた。丘の上を周回する主要道が1本建設され、さらに2本目が小さな道を結ぶ。これによって公共交通へのアクセスが改善する。現在の歩行者用通路は、住民が建てた階段を伝っていくもので、幅が狭く、1段の高さがまちまちで、手すりもなく、急勾配な上、丘の途中で途切れている。地区を結んで住民の日々の行き来をしやすくするため、チームは階段のネットワークをデザインした。これには、電気、排水、下水、ガス、上水といった基本サービスが組み込まれた。空きスペースはすべて通路につながるようにされ、公共の踊り場がところどころに挟み込まれて、地域社会の交流を生む新しい場としての役割を果たしている。もっとも重要なことは、住民が自宅にとどまれるということで、これは社会の絆を維持するために不可欠だった。

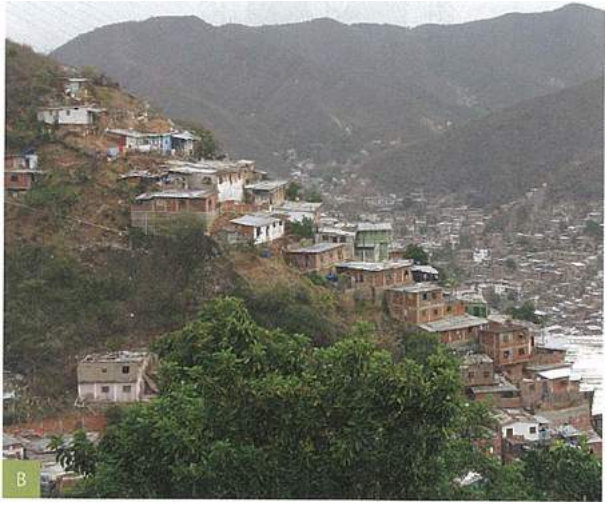
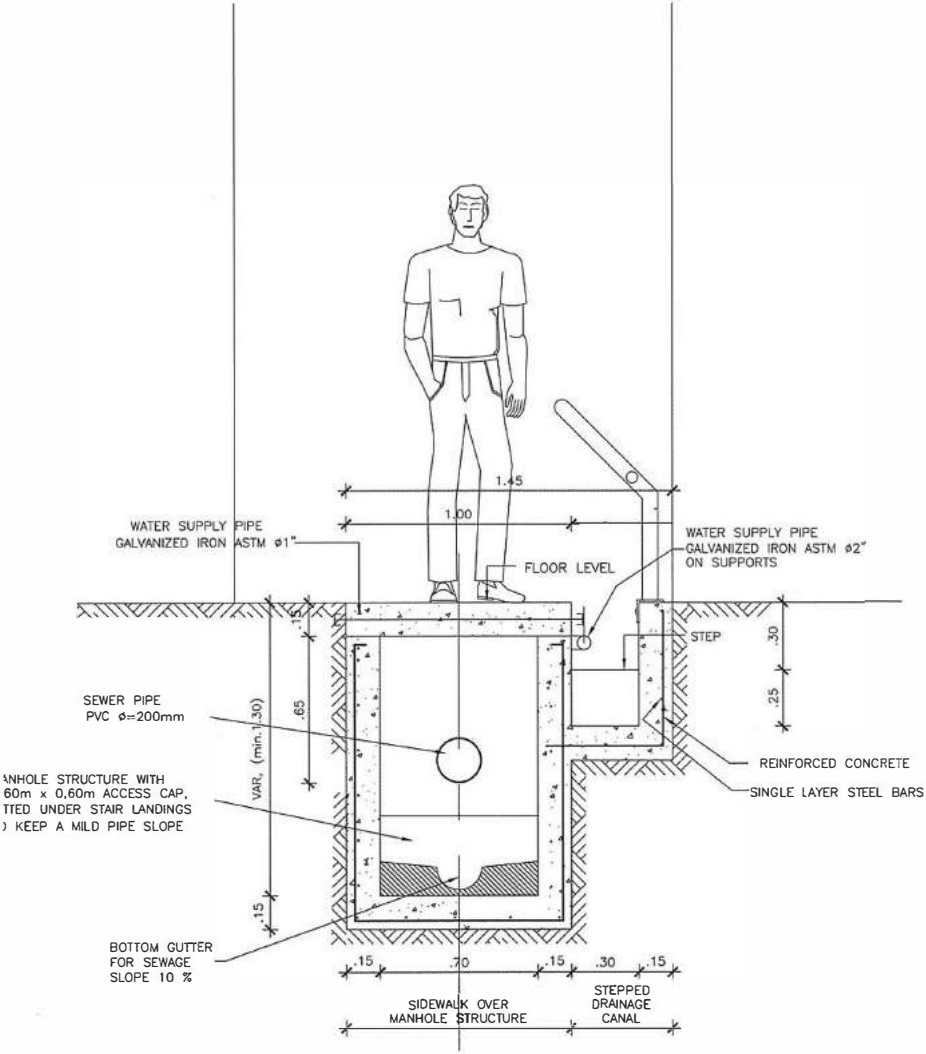


Photo: (c)Proyectos Arqui5



C

C　統合されたインフラを示す断面図。

Figure: (c)Proyectos Arqui5

D　プロジェクト以前と以後。整備された階段の新しいネットワークでところどころに組み込まれた公共の踊り場。

Photo: Cynthia E. Smith, (c) Smithsonian Institution

2019 年度大学院入試

デザイン研究科 修士課程＜理論系＞

【論述】試験問題

実施日　2018 年 11 月 24 日
時　間　90 分
※解答する言語は、出願時に「日本語」また「英語」を選択してください。
　解答する言語で記載された問題用紙が試験当日に配布されます。
　辞書および電子辞書の持ち込みは不可です。

設問 1

以下のリストから５つの語句を選び、それぞれの語句の意味を簡潔に説明してください（解答用紙には選んだ語句の番号を記すこと）。

1. 消費社会
2. 『ライフ』誌
3. ジャポニスム
4. 新興写真運動
5. ピクトグラム
6. フォトグラム
7. タイポグラフィ
8. デ・ステイル
9. アフォーダンス
10. アール・ヌーヴォー

設問 2

以下の文を読み、内容を簡潔に要約した上で、みずからの研究テーマを踏まえて、意見を論述してください。

デザインとアートの違い

ここで混乱を避けるため、デザインとアートの違いを確認しておきたい。デザインはクライアントの要望に適っているのかどうかが重要であり、クライアントによるオリエンテーション、他社との競合プレゼンテーション、そしてクライアントとの最終調整などを経て、ようやく完成に至る。デザインはクライアントと交渉しながら制作するものであり、アートのような自己表現とは制作過程が異なっている。

ところが**デザインの「作り方」は、アートの「作り方」と同じように語られやすい**。これはどちらも造形に関心を持っていることに由来するのだが、**実はそのことがデザイナーとアーティストの区別を難しくもしている**。ここで両者を区別するポイントは、「使い方」である。デザインはクライアントやユーザーの「使い方」に訴えるが、アートは批評家や鑑賞者の「見方」に委ねられる。**使ってもらうために作ることと、見てもらうために作ることは同じではない**。この意味において、デサインはアートと似ているようで異なる。

もちろん、マークやエンブレムを「作品として見る」ことは可能だが、それはデザインを「アートとして見ている」ことになる。情報伝達に特化したグラフィックデザイン（たとえば、マークやポスター）では、クライアントによる「使い方」を消費者が「見ている」ため、デザインとアートの混同が特に生じやすい。しかし、グラフィックデザインは消費者が見る前にクライアントが使うかどうかを決めるものである。クライアントが使わなければ、消費者はそもそも見ることもできない。

加島卓『オリンピック・デザイン・マーケティング　エンブレム問題からオープンデザインへ』河出書房新社、2017 年

2019 年度大学院入試

デザイン研究科 修士課程＜理論系＞

【英語】試験問題

実施日　2018 年 11 月 24 日
時　間　60 分
※辞書の持ち込み可。ただし、電子辞書の持ち込みは不可です。

以下の文章を読み、2 つの設問のうち、どちらか 1 つだけ選び、指定された言語で回答してください。

設問 1：以下の文章の下線部を日本語に訳してください。

設問 2：State your opinion on the education of fine art and design in ENGLISH.

The Bauhaus was founded in 1919 in the city of Weimar by German architect Walter Gropius (1883–1969). Its core objective was a radical concept: to reimagine the material world to reflect the unity of all the arts. Gropius explained this vision for a union of art and design in the Proclamation of the Bauhaus (1919), which described a utopian craft guild combining architecture, sculpture, and painting into a single creative expression. Gropius developed a craft-based curriculum that would turn out artisans and designers capable of creating useful and beautiful objects appropriate to this new system of living.

The Bauhaus combined elements of both fine arts and design education. The curriculum commenced with a preliminary course that immersed the students, who came from a diverse range of social and educational backgrounds, in the study of materials, color theory, and formal relationships in preparation for more specialized studies. This preliminary course was often taught by visual artists, including Paul Klee (1987.455.16), Vasily Kandinsky (1866–1944), and Josef Albers (59.160), among others.

Following their immersion in Bauhaus theory, students entered specialized workshops, which included metalworking, cabinetmaking, weaving, pottery, typography, and wall painting. Although Gropius' initial aim was a unification of the arts through craft, aspects of this approach proved financially impractical. While maintaining the emphasis on craft, he repositioned the goals of the Bauhaus in 1923, stressing the importance of designing for mass production. It was at this time that the school adopted the slogan "Art into Industry."

In 1925, the Bauhaus moved from Weimar to Dessau, where Gropius designed a new building to house the school. This building contained many features that later became hallmarks of modernist architecture, including steel-frame construction, a glass curtain wall, and an asymmetrical, pinwheel plan, throughout which Gropius distributed studio, classroom, and administrative space for maximum efficiency and spatial logic.

Excerpted from "The Bauhaus, 1919-1933" by Alexandra Griffin Winton, in the Heilbrunn Timeline of Art History published by The Metropolitan Museum of Art, New York © 2008-2019. Reprinted by permission.